



《 国産大豆 》

18年産入札終了

8月に実施された18年産国産大豆の入札結果は、日本特産農産物協会の発表によりますと、上場数は4023t、落札が801t、落札率が20%、平均落札価格は前月比60kg/434円高という結果となりました。これで入札は終了し、後は相対取引となります。19年産国産大豆の入札は、11月開始の予定です。

品目横断の申請は8割

東北農政局が、8/7に公表した平成19年産品目横断的経営安定対策加入申請状況によると、東北の加入申請経営体数は19,871（認定農業者18,294、集落営農組織1,577）となりました。また、東北各県の大豆の作付面積に見た比率（18年産大豆作付面積と比較）では、青森県3309ha（80.7%）、秋田県6815ha（86.2%）、岩手県2591ha（63.7%）、宮城県9429ha（97.7%）、山形県5712ha（91.5%）、福島県942ha（26.8%）となり、東北全体では、28,798ha（81.1%）となっております。



《 北米産大豆 》

生産量減少、相場も高騰

アメリカ農務省が9/12に発表した世界の大豆生産高予想では、2億2127万トンと前回よりも0.2%減少（35万トン減少）されました。これは、アメリカとカナダの作付面積が減少されたことが影響しております。期末在庫は、前回よりも2.5%減少（128万トン減少）して、5035万トンとなり、大幅に下方修正されました。期末在庫率も7.2%と逼迫した状況です。

また、アメリカ農務省は、9/19に、アメリカ湾岸から日本へのバルクでの穀物輸送料金が、95ドル/トンと記録的な高値になっていると発表しました。そして、その背景には、中国の高い鉄鋼需要が続いていることや、世界の石炭需要が活発になっていること、北米産穀物が収穫期を迎え、貿易が活発になっていることが挙げられています。

シカゴの大豆相場は、乾燥天候によるブラジル大豆の作付遅延やオーストラリアの2年連続の小麦の不作の影響を受けて、9/27現在、期近で、10ドル9セントとなり、約3年半ぶりの10ドル代に乗せました。今後、ますます相場から目が離せない状況です。

以上のことを踏まえまして、旧穀大豆の価格上昇、さらに、新穀大豆の大幅な価格上昇は避けられない状況となっております。是非とも、商品の価格見直しをするべき時期かと思われます。

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>



《 中国産大豆 》

品質悪化の懸念も大豆価格の高騰続く

中国の現地報道によると、07年産中国産大豆の生産量は、前年比17%減の1,290万tとなる見込みです。その要因としては、中国北部の深刻な干ばつが挙げられ、15年振りの低水準になる可能性があると伝えられております。この影響で、今年の中国は、前年比2.2%増の2,894万tの大豆を輸入するものの、供給は逼迫するとの見方が強く、来年の中国の大豆の輸入量は3,350万tになるものと予想されております。

また、主産地である黒龍江省の収穫量は、例年の30~40%減少されるものと見られています。すでに収穫されている地域では、粒形は、6,0mm以上が例年より少なく、未熟粒や青豆が一部散見されております。収穫された大豆の単収は約142kgで、例年は約217kgと大幅に悪化しております。

そのほかの大豆の高騰要因としては、世界的なバイオ燃料需要の高まりを受けてのトウモロコシ作付面積増加、大豆の作付面積の減少に伴う生産量の減少が挙げられます。



《 トピックス 》

南米産大豆セミナー開催

去る9月6日、仙台におきまして、南米産大豆セミナーを開催致しました。当日は、多数のお客様にご出席して頂き、活発な意見交換の場となりました。商社のブラジル（サンパウロ）支社から講師を招き、現地の生の情報を聞くことが出来て、南米産大豆の今後の可能性に興味を抱くものでした。来年は、弊社でも南米産大豆を取り扱う予定ですので、楽しみにして下さい。



伊藤忠商事(株)山田氏と伊藤忠ブラジル(株)オオタケ氏



セミナーの様子

三倉産業株式会社

仙台市若林区卸町 1-4-7 TEL 022-232-6151

URL:<http://www.mitk.co.jp/mitukura> E-mail: mitk@mitk.co.jp

<< 「豆」がメロディーを奏でると「豊」という字ができます >>